

平成30年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 日本史学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>本研究科修士課程を日本史学専修において修学するにあたって必要とされる日本史学に関する知識ならびに史料読解力を問うために出題した。「問題Ⅰ」は日本史を貫く重要なテーマに関する知識を論述形式で解答させることにより、受験者の問題関心および論理構成力の程度を問うた。「問題Ⅱ」は、前近代もしくは近代に関する設問を選択のうえ解答させることにより、受験者の専攻する時代における基本史料の読解能力の程度を問うた。</p>

平成30年度  
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（後期）  
（専門試験） 日本史学 全6枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 6枚、解答用紙 2枚を配付する。

.....  
【問題の構成】

- ①全2問。問題Ⅰと問題Ⅱからなる。
- ②問題Ⅰは共通問題である。受験者は、全員、この問題に答えなさい。
- ③問題Ⅱは選択問題である。受験者は、AまたはBのどちらかを選択し問題に答えなさい。  
選択にあたっては、古代・中世・近世を専攻するものはAをえらびなさい。近現代を専攻するものはBをえらびなさい。

【解答用紙の使用方法】

解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。  
.....

## 問題Ⅰ

日本史における対外関係といえは、仏教伝来や律令制受容のように、日本の外から内へと人や物が流入・定着し、受容される事例を想起しがちである。しかしながら、その逆もあつたはずである。具体的事例をあげつつ、日本の内から外へと人や物が展開・流出・拡張する歴史を論じなさい。

## 問題Ⅱ

A

史料A・Bを読んで、設問（問1～6）に答えなさい。なお、史料は表記を改めた箇所がある。

### 【史料A】

太政官符

応出羽国史生<sup>\*1</sup>并<sup>\*2</sup>弩師<sup>\*3</sup>歴五年為限事

右得参議従三位行大藏卿陸奥出羽按察使勳四等文室朝臣綿麻呂 (a) 奏状稱、被 (b) 太政官去大同<sup>\*4</sup>

五年六月廿二日符稱、陸奥国史生之歴直准西海道諸国五年為限、弩師准此者、陸奥出羽俱是辺要、

(c) 望讀、件人等歴五年為限者、大納言正三位藤原朝臣園人宣、(d) 奉 勅、依讀、

弘<sup>\*5</sup>仁三年十一月十五日

〔類聚三代格〕

注\*1史生 …… 官職名。官司において、四等官の下に置かれた事務官。

\*2弩師 …… 弩（おおゆみ）を引く人。辺境の要地に配置され、警備に当たった。

\*3歴 …… 任期。

\*4大同五年 …… 西暦八一〇年。

\*5弘仁三年 …… 西暦八二二年。

問1 傍線部 (a) を引用した部分はどこか。始めの五字と終わりの五字をそれぞれ答えなさい。

問2 傍線部 (b) はどのようなことを命じていたのか、その内容を説明しなさい。

問3 傍線部 (c) について、誰が、どのようなことを望んでいるのか、説明しなさい。

問4 傍線部 (d) の読みを、ひらがな（現代かなづかい）で記しなさい。「奉」は「ほう」と読まないこと。

【史料B】

\*問題（画像）は、著作権法上の理由からこのホームページに掲載することができませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

《出典》大永五年八月五日室町幕府過所（京都府立総合資料館編『続図録 東寺百合文書』（京都府立総合資料館、一九七四年）「文書図版」二八頁）

- 問5 この文書を、全文翻刻しなさい（花押の翻刻は不要）。使用する字体は常用漢字でもよい。また、横書きで解答してよいが、原文と同じ箇所を改行すること。
- 問6 本文書は、西暦一五二五年に、室町幕府から東寺住持の住職に宛てて発給されたものである。この文書にはどのようなことが記されているのか、説明しなさい。

問題Ⅱ **B**

史料Aと史料Bを読んで、問一〜十に答えなさい。なお、史料は出題のために改めたところがある。

史料A

\*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

（津田真道「政論」、山室信一・中野目徹校注『明六雑誌』  
（上）、岩波書店、一九九九年、三三三、三三四頁。）

問一、傍線部①の「御諱」について、この史料が書かれた当時の「天皇の御諱」を答えなさい。

問二、傍線部②の職にあった人物は誰か、答えなさい。

問三、傍線部③の「卿輔」とはなにか、説明しなさい。

問四、傍線部④のように津田が考えた背景には、かつて祭祀を重視する姿勢をしめした政府の施策があつた。これについて、知るところを述べなさい。

問五、傍線部⑤のように津田が考えた理由を説明しなさい。

問六、傍線部⑥の予想は、前半は内閣制度によって実現したけれども、「目今の宿弊」以後の後半は実現しなかつた。その理由を説明しなさい。

史料B

\*問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、左記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

(丸山眞男『増補版 現代政治の思想と行動』未来社、一九六四年、二二八頁。)

問七、傍線部⑦の事件は  とよばれる衆議院議員選挙における尾崎の演説が原因で発生した。

- (い) 空欄  にあてはまる語を答えなさい。
- (ろ) 尾崎が述べた「三代目」の意味するところを説明しなさい。

問八、傍線部⑧に示された内容は、「最後の元老」とよばれた政治家の方針と一致する。

- (は) その政治家はだれか、答えなさい。
- (に) 「重臣」の定義を答えなさい。

問九、傍線部⑨の内容を説明しなさい。

問十、史料Bの考察の結果、丸山は太平洋戦争中の日本の支配体制を  と呼んだ。空欄  にあてはまる語を答えなさい。